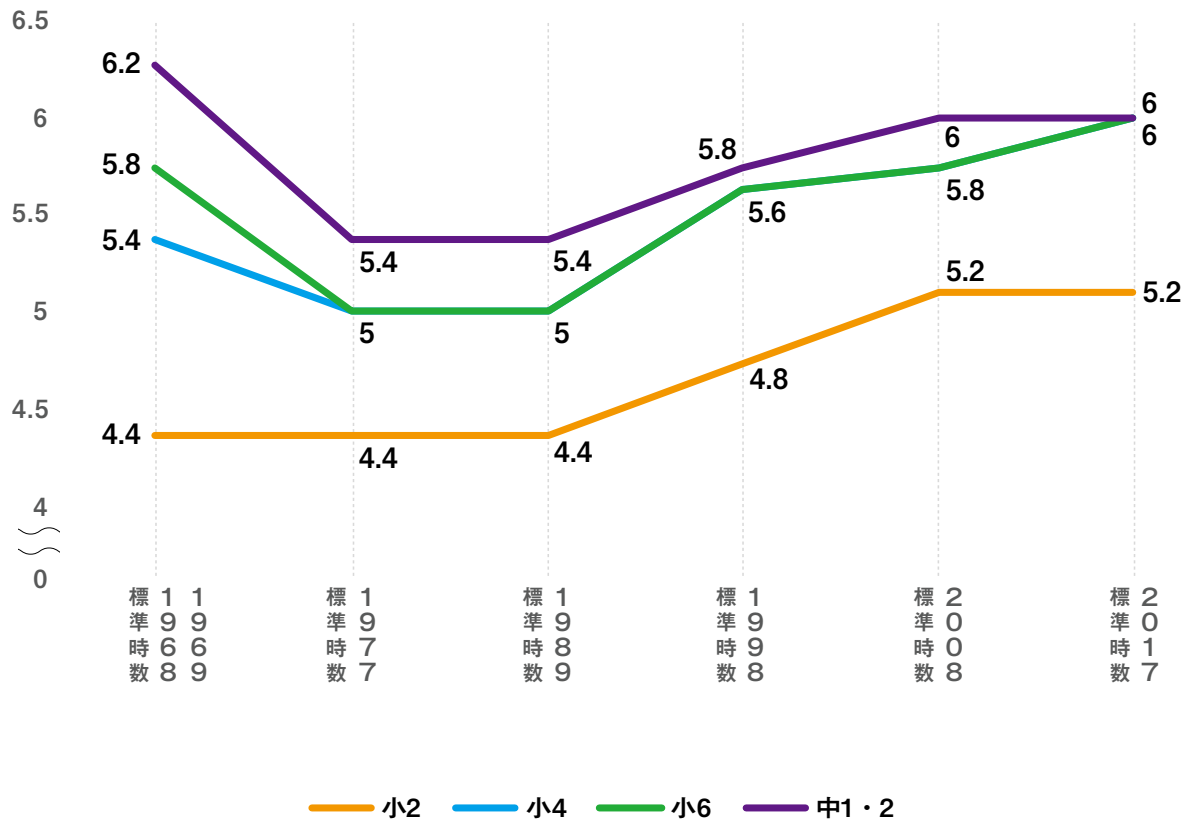


🕒 平日1日の時数の変遷



(大森直樹研究室 作成)

1968年・1969年(週6日制)



小学校(6年)5.8時間



中学校(1・2年)6.2時間

数学者の遠山啓が「肥大なカリキュラム」と批判。

- 授業時数とその内容があまりに大きいと、多くの子どもたちがついていけない。
- ついていけたとしても、内容を消化するのに忙しくて、自分の頭で考える時間がない。



この批判は教育界で立場を超えて共有され、次期学習指導要領改訂で改善が図られる。

1977年～(週6日制)



小学校(6年)5時間



中学校(1・2年)5.4時間

批判を受け「肥大なカリキュラム」が改善。

第1次ゆとりの標準時数。

出典

大森直樹編著、永田守、水本王典、水野佐知子著

『学校の時数をどうするかー現場からのカリキュラム・オーバーロード論』2024年、明石書店

「標準時数の変遷に関する調査ー結果と提言ー」2024年5月

「中学の標準時数の変遷に関する調査ー結果と提言ー」2024年11月

報告書は教育総研 HP 内に掲載 <https://www.k-soken.gr.jp/pages/46/>

